



谷 禎一 議員

アスベスト被害について

町の考えは？

問 奈良県議会の100条委員会は広陵町百済地域内で、通学路としての配慮が無かったこと及び、アスベスト飛散があつた場合を懸念し、慎重に調査している。当該地である町は児童生徒の健康や安全問題について県に先駆けて調査、解決に当たらなければならぬのではないのか？今後、同じことを繰り返さないためには、学校関係者、保護者、PTA相互間の連絡が必要。また、許可権限が町にないことを理由に責任の回避を改めるべく、町に委員会の設置を求める。

平岡町長 アスベスト被害があつた場合はその対応により責任の所在が定まる。

『アスベスト飛散懸念』は新聞報道で知つたので学校を通じて確認したが健康被害はない。道路が県道であることや100条委員会は町の裁量外であるため、特に対応はしてい

ない。町は工事について学校関係者、PTA、父兄の了承を得ていると聞いている。

生徒、児童の安全な環境づくり

提出された町内教育施設の『アスベスト調査報告書』は不備で有り、現在の施設内の児童生徒の健康面での安全性が疑われる。また、調査業者選定についてもなぜ某業者を経由して分析調査を依頼せねばならないのか。

問 奈良県関係課は、児童生徒の通学路での安全の問題などについて「第一義的には町が行なうべきである」「住民の情報提供なりがあれば、早いうちに立ち入りできた」と証言している。当該地である町はなぜ、率先して対応しないのか。

平岡町長 報告書が明確でないが、アスベスト調査は、有資格者が行なっている。また、一部を除いてアスベストの除去は完了している。歩道及び解体の問題については県の100条委員会を見守り、対処予定。民間工事では行政の縦割りの仕組みの中で知り得ないことも、事後に知る場合もありえる。



吉村真弓美 議員

胃がんリスク(ABC)

検診の導入について

問 現在、胃がんで毎年5万人の方が亡くなる。ピロリ菌の長年の感染で胃の粘膜が萎縮して胃がんが発生する。本町の胃がん対策として、従来のバリウムを飲むレントゲン法ではなく、わずかな血液を採るだけで判断ができるABC検診(ピロリ菌感染の有無と萎縮性胃炎の有無を調べ、リスクの高さを説明する)の導入を提案します。

理事者 ABC検診が有効であるということは証明されている。今後そういったことを視野に入れながら対策を考えていく。対象年齢や費用についても研究し、早期にできるものであれば実施をしてまいりたい。

学校における

がん教育の推進について

問 義務教育の時代にがん検診や予防の大切さを教えることが、がん対策の最大の啓発活動になる。子ども達の周りでも子宮頸がんの予防接種が開始されるなど、がんは子ども達の身近な問題となっている。子どもの命を守るために小中学校でがんの正しい知識を授業などで教えるなど、がん教育を推進していかげでしょうか。

安田教育長 小学校では、保健体育の授業中「保健指導」の単元において学習を行い、中学校では、3年生の「保健体育」の授業において学んでいます。今後も、あらゆる機会を通じて「がん」をはじめ健康に関する学習を深めてまいります。

選挙制度について

問 全国には、有権者に郵送する投票所入場券の裏に宣誓書を印刷して自宅で記入する方式をとる自治体が増えている。高齢者の中には、投票所で宣誓書を書くだけでも緊張するとの声があり、心理的負担の解消になり投票率の向上にもつながる。ぜひ、自宅で宣誓書を記入できるように対策を講じていただきたい。

理事者 隣接したところ(橿原市・香芝市・上牧町・斑鳩町・川西町・田原本町・大和郡山市)が実施をしていくということですから、本町も近い将来実施に向け考えていく。